



「未来ゆきの切符」

大館市教育委員会 教育長 高橋善之

7月のこと、子どもたちへの砂金採り体験学習も無事終わり、ほっとしてベンチに座っていた私の横にちょこんと腰掛けたのは、小学校2年生の「未来さん」。その日、最も多くの砂金を見つけた女の子。「ねえ、あなたは、ほんとは何をしている人なの？」・・・いきなりの質問に絶句した。小学校2年生では、教育委員会などわからないだろうし、学校の先生という答えも的確ではない。答えに窮しながら、考えさせられた・・・「本当に、自分はいったい何をしているのか」と。

今年4月の東北地区教育長会にて、釜石市の川崎教育長と懇意になり、一枚の切符をいただいた。震災から1年が経ち、いまだ復旧の目途が立たない三陸鉄道を支援するための支援切符とのこと。日付は「24.3.11」、区間は「釜石から復興未来ゆき」、そして「諦めないかぎり有効 300円」と記されている。4千枚売り出され、瞬く間に売り切れた切符の一枚だという。大館に持ち帰りさっそく校長会等で紹介した。第一中学校の菊地校長は、川崎教育長を通して特別に増刷していただき、生徒と職員全員に配布した。後日、「校長先生、私なんかでも、諦めないかぎり有効なんですか？」と、わざわざ尋ねる女子生徒もいたという。

大館は、「ふるさとキャリア教育」を根幹として教育を推進している。「ふるさとに根ざして、大館の未来を切り拓く人財」を育成するためである。したがって、私が為すべき使命は、一人一人の子どもたちに「ふるさと大館から未来ゆき 諦めないかぎり有効」の切符を渡してあげること。それが「未来さん」からの問いに対する答えになるのかな、と思っている。



「体験によって人は成長する」

大館市教育研究会 会長 河田和徳

市教研の共通主題は「豊かな人間性をもち、自ら学び、自ら考えるたくましい児童生徒の育成」です。自ら考える力を身に付けるには、自分で考えるための基（もと）をもっていなければいけません。それは、体験によって培われます。体験した事柄は脳の各引き出しに蓄積されていき、ある事について自分の考えが必要な時に、それに関連した引き出しから取り出して、自ら考えることができるようになります。ですから、体験をできるだけ多くさせ、自ら考えることができる基を増やしてやるのが大切です。

私は、高校2年生の夏休みに、友人と2人で自転車旅行をし、9日間で1,200キロあまりを走破しました。40年も前のことですが、この体験を通して学んだ事柄は、今も日常生活に生きて働いており、貴重な経験となって役立っています。全体プランを立て、自己の能力を發揮しながら、課題に向かい、その中でいろいろな人間と関わって目標を達成したことで、自ら学び、自ら考えて行動するというキャリアが身に付いたように思います。

第2回総合研究会では、考える基を与えるために体験的な活動を準備し、その中に言語活動を取り入れながら、課題達成を目指す授業が多く見られました。この形は、日々の授業で育むキャリア教育にもつながっており、課題対応能力・人間関係形成能力等を鍛えることにもなります。今後も授業における体験的な活動の日常化で、自ら考えるたくましい児童生徒を育てていきましょう。